

世界の 見方



不寛容と憎しみに基づく暴力によってユダヤ教徒やイスラム教徒、キリスト教徒が殺害される事件があまりにも身近になりつつある。少数民族、移民、難民、女性などあらゆる「その他」の存在に対しても、忌まわしいまでの誇張表現が使われている。憎悪が野火のように広がる中、ソーシャルメディアが偏見に悪用され、ネオナチと白人至上主義者たちの勢いが増している。

ヘイトスピーチは暴力の基盤となり、平和や安定、持続可能な開発、人間の尊厳という理念を後退させかねない。ヘイトスピーチはこの数十年、ルワンダからボスニア、カンボジアに至るまで大量虐殺を含む残虐な犯罪の前兆になっていた。世界が再び深刻な状況を迎えつつあると危惧する。

私が二つの国連のイニシアチフを立ち上げたのはそのためだ。一つ目は公表したばかりのヘイトスピーチに関する

アントニオ・グテレス
国連事務総長

ヘイトスピーチの野火

戦略と行動計画で、憎悪の根源に対処し、より効果的な措置をとるため国連システム全体の調整を図る。二つ目として、宗教施設の安全支援に国連が取り組むための行動計画を検討している。

ヘイトスピーチに立ち向かうことは、言論の自由を制限するという意味ではない。差別や敵意や暴力の扇動といった、国際法で禁止されるより危険なものへとエスカレートするのを防ぐということだ。ヘイトスピーチを非難し、その増幅を拒み、事実をもって対抗し、加害者に行動を改めるよう促す。あらゆる敵対的な行動について同様の対処が必要だ。

今こそ、宗教に対する攻撃だけでなく、あらゆる形態の人種差別や排外主義、不寛容の根絶に踏み出す時だ。政府、市民社会、民間企業、メディアには重要な役割があり、政治・宗教的指導者は平和的な共存を促進する特別な責任がある。我々はともに憎悪の野火を消し、我々を一つの家族として結び付けている価値観を維持することができるのだ。
【訳・高木香奈】

ヘイトスピーチに関する国連戦略・行動計画

系、性、その他のアイデンティティーの要素に基づき、個人や団体を軽蔑または差別的な表現で攻撃する言動、記述、振る舞いと定義。国連の取る行動計画として、ヘイトスピーチのデータ収集や分析▽根本原因や増幅行為への対処▽メディアとの連携▽科学技術や教育の活用——などを挙げた。グテレス事務総長が6月18日、加盟国への非公式ブリーフィングで発表した。